

ペンギンの

『しろちゃん』が
踏み出した一歩

もぐもぐぺたぺたタイム誕生秘話



趾留症を発症した足裏



練習で先頭に立つしろちゃん



完治した足裏

「ペンギンのもぐもぐぺたぺたタイム」は、ペンギンとお散歩ができるイベントとして人気ですが、イベントをはじめたきっかけは病気を治療するためでした。7年前、小諸市動物園にいた9羽のペンギンのほとんどが「趾留症」といわれる病気にかかっていました。この病気にかかると、足裏にタコのようなものでき、ここから雑菌が入ると全身に回って命を落とすこともあるといわれています。

動物園のペンギンは運動不足になりやすく、それが原因の一つと考えられていました。そこで、運動もできて、なおかつ来園者の皆さんにも喜んでもらえるよう、園内をお散歩する「ペンギンのもぐもぐぺたぺたタイム」を考案し、さっそく練習を始めました。

ところが、練習は思うように進まず、餌のアジを使ってもなかなか扉から出て来てくれません。苦労続きの毎日でしたが、そんな中、『しろちゃん』というペンギンだけが、一步一步外に出てきてくれるようになりました。すると、他のペンギン達も『しろちゃん』につられてあとに続いてくるようになりました。練習開始から3年が経ち、『もぐもぐぺたぺたタイム』はカタチになりました。そして、ペンギン達の「趾留症」も治まり、今は足裏もきれいになりました。残念ながら、みんなを引っ張ってくれた『しろちゃん』は、今年の春に23才という長寿を全うして亡くなりました。『しろちゃん』の踏み出した一歩が、小諸市動物園の大きな一歩だったと私は思います。

天国の『しろちゃん』のためにも、動物たちが健康に暮らせ、皆さんに愛される小諸市動物園を目指して、飼育員一同頑張っていきたいと思います。

担当 吉川 晶子（動物園スタッフ）

自由記述欄で寄せられたご意見（シンポジウムでのアンケートから抜粋）

50代女性	どこの動物園で写真を撮ったか分かるように「小諸市動物園」が入ったインスタ映えする場所を作ってほしい。崩れそうな崖を早急に補修してください。これからの動物園に期待しています。
40代男性	行政がやること、市民が協力できることを明確にして市民と一緒に動物園を盛り上げていきましょう。動物園は小諸の宝です。
70代男性	昔はゾウやキリンがいたが、子ども目線では狭い印象はなかった。ギュウギュウでもいいので崖下を改修して多数展示してください。
70代男性	茶臼山動物園のように広々とした動物園が欲しい。例えば「ハローアニマル」の下を動物園にしたらどうか。
60代	市民参加を積極的に進めるための方法を早急に検討してほしい。
50代女性	バリアフリー、ユニバーサルデザインの動物園を。